CRAS **Builder's Interview**

—— 清水裕一（グリーンハウスシミズ代表）

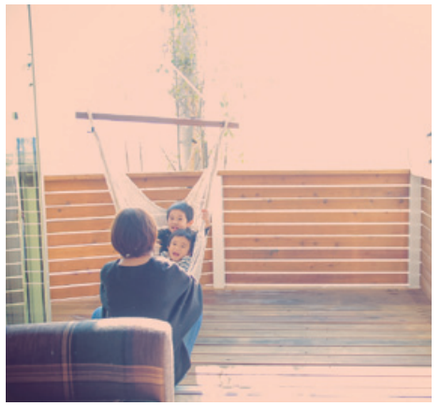
——上質なラウンジと、アメリカンビンテージ、異なる2つのスタイルを同時に完成させたわけですが、それぞれどういった経緯でこのテイストになったのかを聞かせて下さい。

プレミアムラウンジと名付けられたこのお宅は、ホテルのような上質な空間がテーマでした。敷地の広さを最大限に活かし、長めの直線を意識して、空間を大胆に使いました。2階は横幅いっぱいにとったバルコニー、特にライトアップされたようすは、この家の上質感を表現していると思います。直線の長さはゆったりしたラウンジ感を出すには重要でした。大胆ではあるけど、実は細かい計算を随所にしてあるんです。たとえば屋根の勾配を「見た目」と「機能」のバランスを考えて、数cm単位でせめぎあったりとか。これまでのグリーンハウスらしさを強く出せた1棟だと思います。

株式会社グリーンハウスシミズ　インタビュー

新たなスタイルへの挑戦。

「光、風、そして粋…。」「image は無限」2 つがテーマのグリーンハウスシミズ。
今回はスタイルの違う 2 棟を同時に紹介します。



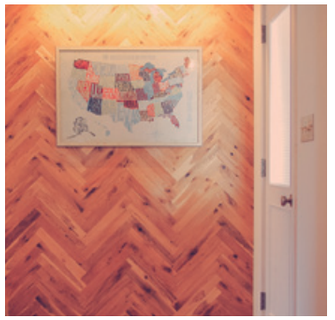
——こちらのアメリカンビンテージはこれまでにないスタイルですね。

計画初期の頃は、アメリカンじゃなかったんですよ。これまでのグリーンハウスっぽいデザインというか、シンプルなもので。外壁も黒でしたからね。でも話をしていくうちに、本当はこういうアメリカンなものが好きじゃないんですか?って。そしたら「そうかもしれません!ビンテージっぽいテーブルとか、ブルーグレーの自転車とか、そういうの好きで持ってました!」と、話していくうちにご自分で気付いたようで、そこから一気にアメリカンなものでいこうと。ご主人は今まで以上にアメリカンにハマっていきました。でも「アメリカンだけどグリーンハウスっぽい上品なテイストは残して下さい」と要望されたので、ラフになり過ぎないアメリカン、上品なアメリカンというテイストで挑戦できました。

——これまでグリーンハウスには無かったスタイルに挑戦したわけですが。

お客様は、これまでうちが建てた家を見て、声をかけてくれるわけなのですが、どうしても決めつけちゃっているところがあると思うんです。でも「imageは無限」これからも、お客様に喜んでもらえるような新しいスタイルにどんどんチャレンジしたいです。だって家づくりが好きですからね。とくにテイストやスタイル選びは。でも、グリーンハウスらしさ、上品さとか光の使い方とか「らしさ」は残したいですね。だから、まずはリクエストをなんでも投げてみて欲しいです。壁は高いほど、登りがいがありますから。

施主が自分でも気付かない潜在的に求めているものを、会話の中から引き出し「気づき」を与えること、新しいスタイルに挑戦しながらもグリーンハウス「らしさ」を残すこと。ますますスタイルの幅が広がっていく今後の展開に注目したい。

GHS Design for around life. green HOUSE SHIMIZU

株式会社グリーンハウスシミズ
〒950-0916 新潟市中央区米山3-11-9 ☎025-247-8276
www.greenhouse-shimizu.co.jp